

GEOTAIL 射場作業の思い出

元 三菱重工 唐津信弘

私は三菱重工時代に 1992 年 5 月から約 3 ケ月間、GEOTAIL 射場実験班の一員としてフロリダのケネディスペースセンターに出張しました。

主な仕事は RCS の射場搬入後の動作チェック、燃料充填等で、特に燃料充填は GE アストロテックと共同作業であったため、慣れない英語の手順書で大変でした。また、燃料充填は雷が近づくと作業を中断することになりますが、フロリダは亜熱帯性気候で夏季は雷を伴うスコールが多く、朝 5 時くらいにアパートを出発して 6 時くらいから準備を進めていたら、急に雷が近づいてきて、その日の充填作業は中止となることもあったように記憶しています。どうにか襲雷を避けて燃料充填が無事完了したときは“内心安堵”したものでした。

また、7 月 24 日の打ち上げ日は天候に恵まれ、打ち上がった瞬間、ビルディングの外に何人か（私もその 1 人）飛び出し白煙を上げて力強く上昇していく GEOTAIL 搭載のデルタ II ロケットを見た後、すぐにチェックアウト室に戻り、RCS によるスピンドاون、自動太陽捕捉等の制御が正常に行われていることを確認したときは、一瞬感激し涙が出たものでした。

一方、フロリダでの生活はココアビーチに面したアパートでの自炊生活で、仕事日でも 5 時頃にアパートに帰り、8 時くらいまでは明るかったので、ビーチで走ったり、泳いだりして過ごしました。しかし、ある日ビーチで泳いでいたら、海水パンツの紐に固定していたアパートの鍵が外れて無くしたときには大変でした。アパートの管理人さんに部屋の鍵は開けてもらったのですが、スペアキーがなく翌日鍵屋さんに管理人さんと一緒に行って作ることになり、その夜は紐で中からくくったものの怖くて眠れない一夜でした。

休日は釣りをしたり、カラオケで歌ったり、フリーマーケットに車で出かけたりして過ごしました。釣りでは“ペンフィッシュ”という 12~13cm くらいの黒鯛のような魚を 10 匹くらい釣ったところで釣れなくなり、クーラーと餌をその場に置いたまま 5 m 程度場所を移動して釣ったのですが、釣った魚をクーラーに入れようと戻ったら残っていた餌が無くなっていました。日本ではこのようなことはなかったので、改めて日本との違いに気付き、以後の釣りでは注意したことを今でも覚えています。

以上



チェックアウト室で RCS 動作確認



ココアビーチにて